



蒜山高等学校新聞

蒜高タイムズ

第83号

毎月25日発行

H23. 1. 21

蒜山高校 教務課

Tel:66-2016

hiruzen07@pref.okayama.jp

表彰伝達式・一学期終業式・退任式(十二月十七日)

一学期の表彰伝達式が行われました。30たいむ「図書ポップカード」では一位小椋翼君、一位入澤友也君、二位神林美穂さん、「聞き取り大会」では、一位仲西那都此さん、長見あきほさん、野島美里さん、常守智賢君、二位法花歩美さん、御船真央さん、入澤千穂さん、進明歩さん、三位若和広君、河原結君、小谷勇稀君、丸山真空君が表彰されました。また、第二十五回国民文化祭おかやま2010文芸祭短歌大会において入選した岡田千亜紀さんが表彰されました。

式に際し、校長先生は、「今日で一学期が終了します。この一年はみなさんにとってどんな年でしたか。一学期始業式にみなさんに二つのことを言いましたが、覚えていますか。一つ目は『三座祭を成功させよう』でした。生徒は一生懸命頑張ってくれました。それだけでなく、多くの保護者の方や地域の方が足を運んでくださり、高い評価をいただきました。来年度も今年に負けず劣らず今から生徒会を中心に練習始めてください。二つ目は『動から静へ、頭を早く切り換えて勉強や読書に頑張ってください。成果が上がった人は更に精進してください。成果が十分に上がらなかった人は、まだ修正が効きますので、軌道修正してください。生徒のみなさんに、最近の言葉の中で心に残った言葉を二つ紹介します。一つ目は横綱白鵬の言葉です。六十二連勝が途絶えた時、白鵬は『完敗。相撲の中に隙があった。』失敗を自分の中にあつた隙と結論付けました。さらに、『負けは負けだから認めない。』と再び勝利の道へと自らを導きました。失敗を客観的に見つけ、謙虚に次に繋げていく姿勢を実践して欲しいと思います。二つ目は全校集会での片山先生の言葉です。『学校は、あれは駄目。これは駄目というだけの場所ではありません。蒜山高校はみんなのものでもあり同時に卒業していった多くの人達のものでもある。先輩達の気持ちを是非汲んで欲しいというのが、心からの願いです。』母校が無くなったり、母校の評判を寂しく思ったり、母校とは常に気になる存在なのです。常に光り輝いて欲しいと願う場所です。みなさんの活躍を見守ってくださっていると私たちは思います。校歌の中にも『高校立てり 野に立てり』とあるように、地域の人の熱い思いがあったからこそ、今の蒜山高校があります。みなさんで更に素晴らしい学校にしていきたいでしょう。最後に、アメリカ合衆国、第三十五代大統領、ケネディの言葉を覚えてみなさんに贈ります。『尋ねないでください。蒜山高校があなたのために何をしてくれるのかを。尋ねてください。あなたが蒜山高校に何が出来るのかを。』素晴らしい年になるよう、素晴らしい年にするよう、お互い頑張ってください。』とおっしゃってくださいました。

式後、二学期末で産休のため、学校を去られる友金先生の退任式が行われました。友金先生は、『みなさんお世話になりました。この学校では多くの事を学ばせていただきました。特に最近授業が楽しくなってきた所でみなさんとお別れするのは残念です。みなさんの未来が輝かしいものであることを心から願っています。』と挨拶されました。お世話になった先生とお別れを名残惜しく思いつつ同時に、また新たな目標に向かって前進していくことを決意した日でした。



二学期始業式・新任式(一月十一日)

校長先生は式辞の中で、「蒜山は年末年始の寒波で、雪が降り積もっています。みなさんの自宅は大丈夫でしたか。改めて雪の多い地域の大変さが分かりました。」と挨拶され、二学期始めに生徒達に「朝日新聞の『孤族の国』の中で、単身世帯の増加や高齢化に伴い、豊かな国と思われていたこの国の中も、誰しもが新しい情報技術により、繋がっているようで、人と人との本当の繋がりが失われつつある。そもそも人と人との繋がりは一体何なのか。孤族の国といわれる今だからこそ、人と人との繋がりの大切さを今一度考える年になっていきたいと思います。羨望中(かんさんじゅん)著の『悩む力』の中でも、『人と人の関係は、岸辺に寄せては消えていく泡のようにはかかないように見えます。』とあります。また、日系ブラジル人のコメントには、『日本では失業者が自ら命を絶つ。不思議でしょうがない。ブラジルでは食べ物配るときに言葉も配る。助けてもらったり、助けたりすることに遠慮はしない。』これらの記事から『孤族の国日本』を避けられるヒントがあるのではないのでしょうか。社会的にも、自立支援センターや傾聴ボランティアなど、人と人との繋がりを再構築しようという取り組みが見受けられます。大阪府岸和田市の高校生が、新聞の記事の中で、『最初はお菓子が好きで、パティシエを目指していたが、無縁社会といわれる今だからこそ、人と人との笑顔で結ぶお菓子を作るパティシエになりたい。』と書いていました。学校生活の中でも、人と人が互いに向き合い、喜んでもらえることをしたり、感謝の気持ちを表したりと、きわめて日常なこと、何気ない行動の中に心の通い合いがあります。そういったことを大切に『蒜山高校』であって欲しいと思います。一日一回、誰かに喜んでもらえることをしたり、してもらった人がありがたさで感謝する。こういったことを意識して少しずつやっていきたいと思います。さらに、そういった思いが地域に広がっていくことも願っています。』述べられました。

始業式の後、新任式が行われ、一年生の情報の授業でお世話になる、滝田東(たきたあずま)先生を新たにお迎えいたしました。

すいとん制作始まる

昨年に引き続き、今年度は二十七名の生徒がボランティアとして、すいとん制作を開始しました。まずはヤスリがけです。グラインダーや紙やすりで、丸太を丁寧に整えていき、また、二メートル近くある巨大すいとんに挑戦している人もいて、出来上がりがとても楽しみです。



1月の予定

26日(水)～学年末考査3年生

2月の予定

18日消費者講座三年生

28日学校賞表彰 卒業式予行

